



国際プロジェクト&プログラムマネジメント学会

「2007年度春季研究発表大会」のお知らせ

(2007年4月11日 版)



大会テーマ

「全体調和型革新を推進するプロジェクト・プログラム
マネジメント 仕組み、課題、成功要因を探る」

日時	4月27日	金曜日	
	9:00	10:00	個別研究発表
	10:00	10:15	会長挨拶
	10:15	11:45	基調講演
	13:00	15:00	個別研究発表
	15:15	16:15	特別招待パネル
	16:25	17:25	個別研究発表
	17:35	18:35	ワークショップ
	19:00	21:00	懇親会(於 エスペリア)

場所 日本工業大学大学院 神保町キャンパス
交通 都営三田線、都営新宿線、東京メトロ半蔵門線
下車駅 神保町下車、岩波ホールA 6 出口から靖国通り九段方向2分
(地図 <http://www.iap2m.jp/nitmap.htm>)

1 大会のご挨拶

わが国では人口減少と格差社会が進行しておりますが、このような環境のもとで経営管理者は社会的責任と競争優位を「全体調和させる革新」が求められています。これまで、英国のドーア教授は、市場原理を中心とした米国型のストックホルダー・カンパニー（株主主権企業）よりも、株主、地域社会、従業員、組合、家族などステイクホルダー・カンパニー（利害関係者尊重の企業）による「全体調和」が望ましいと日本企業に警告してきました。その一方で、企業はグローバル化された市場に適応して競争優位を維持発展させるため、組織改革、製品開発、事業合理化など多角的な「革新」も推進しなければなりません。とりわけ、大規模開発とスピード成果が重視される研究開発の外注化が進展しており、経営管理者は組織能力を再評価し、知的資源の make or buy への全体調和革新も重要な課題となっています。後藤 晃氏などにより基礎科学に依拠するサイエンス産業が提唱されていますが、ハイテク競争を迎えて、新領域創成のために産業と科学の相互作用も忘れてはなりません。本大会では、全体調和型革新に関する会員の研究発表成果に期待しています。

学会会長 吉田邦夫

2 大会テーマ

本大会の全体テーマは「全体調和型革新を推進するプロジェクト・プログラムマネジメント その仕組み、課題、成功要因を探る」です。グローバルな競争社会で生存し、発展するために、わが国でも制度、組織、技術、事業などの大小規模の「革新」が部分、分散的に議論されています。革新の意味は、既存の古い枠組みを破壊し、「新たな仕組み」を構築する将来の価値創造を意図です。ここで革新は、欧米流のイノベーションよりも広義の改革、開発、改善などの大小の企画事業を包括して解釈しております。この破壊と創造の同期的プロセスを成功させるためには、「全体調和」(holistic harmonization)の発想が、キーコンセプトになります。最近話題となっている社会受容、CSR (corporate social responsibility)、ステークホルダー調整、内部統制、プロジェクトガバナンス組織間関係は、「全体視点で革新と調和を実現する発想や方法論」に関係しています。

実行委員会

3 基調講演と研究発表トラック

3.1 基調講演

「サステナビリティ・イノベーションの創成：
グローバル情報コモンズのデザイン」
東京大学大学院 新領域創成科学研究科
人間環境学専攻 准教授 鎗目 雅

3.2 研究発表

本大会では、4つの領域にフォーカスして発表トラックを設定することにいたしました。応募に関する要領は、項目4を参照ください。

- 統合トラック・・・革新を全体視点で調和させ統合するマネジメント
- 開発トラック・・・成果をあげる開発マネジメント
- 組織トラック・・・抵抗を成功に変える組織に関するマネジメント
- 自由トラック・・・大会テーマに関する自由論題

4 研究発表の公募

研究発表を会員から公募いたします。研究発表の内容は、上記の4トラックからご選定ください。非会員でご発表を希望する方は学会への入会を条件といたします。発表の要領は次のとおりです。

- 発表時間 : 25分以内、5分を質疑応答に充てます
- 要旨締切 : 平成19年3月5日、
タイトルと要旨300文字以内(厳守)
- 論文締切 : 平成19年3月31日、土曜日18:00(厳守)
A4で10枚以内として投稿規程に従う
- 提出先 : 国際P2M学会実行委員会
- 提出方法 : ac175-p2m@canpan.org 宛 電子メール添付
- 投稿規程 : <http://www.iap2m.jp/text2.pdf> を参照してください

5 特別招待パネル

「公的サービス領域での情報システム開発プロジェクトマネジメントの課題」

本パネルセッションでは、電子政府に代表される公的領域での諸サービスに関する情報システム開発について、その開発のプロジェクトマネジメントの現状と課題を概括する。セッションは、基調講演と問題提起、更に会場との質疑応答から成る。

日本の公的領域でのシステム開発については、いろいろ問題点が指摘されており、そこには開発側のビジネスプロセスに関する無理解や無知、システム分析能力の問題、ソフトウェアという製品に於ける完成度の低さを受容する風土、発注側と受注側が仕様をきちんと作ることのできない現状、丸投げ体質、発注側の担当者の人事ローテーションによるプロジェクトの一貫性の問題などをベースに、問題のあるシステムが開発され続けている現状がある。日本語の壁と情報収集などで比較優位を持ち安穩としている公的ソフトの受注は、参入障壁がなくなりさえすれば、早晩かってPCのハードやERPで起きたのと同じような、競争力の差から国産システム開発の敗退という憂き目に遭うであろうことは必須である。

本セッションでは、公的情報システムの開発に携わってきた高島と、設計に関与した出口による基調講演と問題提起を受けて、日本の公的サービス領域に於けるシステム開発の問題点を会場と本音ベースで討議したい。

司会 東京工業大学大学院総合理工学研究科 教授 出口弘

- 基調講演 20分：総務省消防庁消防大学校専門官 高島史郎
「電子政府の推進のための情報システム開発に関する現状と課題」
- 問題提起 20分：東京工業大学大学院総合理工学研究科 教授 出口弘
「公的サービス領域での情報システム開発の問題
ー社会的アーキテクチャデザインのためのシステム方法論ー」
- 質疑応答 20分

6 ワークショップ

「ITソフト産業の展望と次世代人材育成」

全体調和型革新を具体的に論議するために、ITソフト産業の実情と展望についてフォーカスする。ITソフトウェアは多くの産業に浸透して活況を呈しているが、欧米企業の優位が顕著で過当競争も日常化している。そのため、コスト競争対応としてオフショアリングが拡大しさらに増勢が予想される。このようななかで、日本独自の革新発想と次世代人材育成が重要な課題となる。第一線の実践者と識者が、その方向性について議論する。

司会	早稲田大学国際教養学部教授	木下俊彦
	日本ユニシス株式会社 .NET センター長	白井久美子
	株式会社クロスリンク・コンサルティング	
	代表取締役社長	拜原正人
	京都大学学術情報メディアセンター教授	喜多 一

7 4月27日(金曜日)の春季大会スケジュール

9:00 - 10:00 個別研究発表(詳細は付録参照)

10:00 - 10:15 学会会長挨拶 東京大学名誉教授 吉田邦夫

10:15 - 11:45 基調講演

「サステナビリティ・イノベーションの創成:

グローバル情報コモンズのデザイン」

東京大学大学院 新領域創成科学研究科

人間環境学専攻 准教授

鎗目 雅

11:45 - 13:00 昼休み

13:00 - 15:00 個別研究発表(詳細は付録参照)

15:00 - 15:15 コーヒーブレイク

15:15 - 16:15 特別招待パネル

「公的サービス領域での情報システム開発プロジェクトマネジメントの課題」

総務省消防庁消防大学校専門官

高島 史郎

東京工業大学大学院総合理工学研究科教授

出口 弘

16:15 - 16:25 休憩

16:25 - 17:25 個別研究発表(詳細は付録参照)

17:25 - 17:35 休憩

17:35 - 18:35 ワークショップ

「ITソフト産業の展望と次世代人材育成」

司会 早稲田大学国際教養学部教授

木下俊彦

日本ユニシス株式会社 .NET センター長

白井久美子

株式会社クロスリンク・コンサルティング

代表取締役社長

拜原正人

京都大学学術情報メディアセンター教授

喜多 一

19:00 - 21:00 懇親会 (ダイニングカフェ エスペリア)

8 参加と申し込みについて

■ 参加予約の申し込み

学会のウェブ受付にて参加予約をお申し込みください。

(申込 URL は <http://www.iap2m.jp/regist/taikai.html>)

■ 参加費用

会員は1万円、非会員は1万3000円 懇親会 4000円

当日 会場受付(3F 多目的ホール前)にて現金でお支払いください。

大会および懇親会 会場地図



懇親会会場は、日本工業大学大学院(神保町キャンパス)の 道路を挟んだ向かい側です。

千代田区神田神保町 2-4 太平電業ビルB1F TEL 03-3234-2588

付録 スケジュール (2007年4月10日現在)

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場
会場	3F 多目的ホール	6F 603号室	6F 604号室	6F 602号室	8F 801号室
研究発表	統合トラック	開発トラック	組織トラック	自由トラック (グローバル戦略)	自由トラック (参加型学習)
座長	—	—	小原重信	清水基夫	西尾雅年
9:00- 9:30	—	B-1 田中和夫・玉木勝:日本の建設産業におけるサービスモデル開発～建築リニューアルの事業改革・改善活動への適応～	C-1 伊佐田文彦:Business architecture for Program & Project Management	D-1 武富為嗣:プロジェクトガバナンスの確立に向けて	E-1 白井久美子:競争優位のための人的資本経営
9:30-10:00	—	B-2 堀口正明:PMのためのファイナンス知識	C-2 渡辺貢成:プロファイリングマネジメントにおける洞察カモデルの考察	D-2 岡本信義:中小零細企業の新時代の新たなビジネスモデル	E-2 西尾雅年:大学教育におけるKPMの教育効果と実践
10:00-10:15	[A会場・3F 多目的ホール] 学会会長挨拶 東京大学名誉教授 吉田邦夫				
10:15-11:45	[A会場・3F 多目的ホール] 基調講演 「サステナビリティ・イノベーションの創成:グローバル情報 commons のデザイン」 東京大学大学院 新領域創成科学研究科 人間環境学専攻 准教授 鎗目 雅				
11:45-13:00	昼休み				
座長	浅田孝幸	山本秀男	小原重信	清水基夫	西尾雅年
13:00-13:30	A-1 岡田依里:イノベーションシステムでのプロジェクト・バランスと知的財産ポリシー:国際社会の中で	B-3 山口径・西尾雅年・陳 偉・菅谷茂・篠原慶太:プラットフォームマネジメントに基づく DOA 教育プロジェクト実践事例	C-3 牧野丹奈子・浅田孝幸:The “Sociality” of Commodities Brings the New Inter-Firms’ Collaboration	D-3 遠征・清水基夫:エネルギー・サステナビリティに関するグローバル・システムの検討	E-3 松田直浩・森幹彦・喜多一:利用者参加のものづくりプロセスとその課題
13:30-14:00	A-2 三浦徹志・浅田孝幸:先進的企業における共同研究開発投資の戦略的オプション価値 - ICT チップ・タグの事業化事例から -	B-4 山根里香・浅田孝幸:製品開発のパフォーマンス向上と戦略的マネジメント・コントロールの機能	C-4 今口忠政:プロジェクト型組織への変革	D-4 佐々木宏:ITサービス企業の事業ポートフォリオ戦略	E-4 松本有二:フラット化と業績測定が組織のプロジェクトマネジメント能力に与える効果について
14:00-14:30	A-3 木下俊彦:日本経済・企業モデルの変遷:P2MからKPMへ	B-5 山本秀男・東川淳紀:SI企業の技術開発マネジメントにおけるBSCの活用	C-5 内田淳二:組織能力の可視化に関する研究 - P2M OWMモデルをものなる一本の樹に見立てた場合 -	D-5 永池克明:グローバル化・多国籍プロジェクト・マネジメント	E-5 相原憲一:ICT ガバナンスからみたCIOとPMとの職能関係
14:30-15:00	A-4 岸良裕司:マルチプロジェクトマネジメントによる経営改革	B-6 小松昭英:情報システム開発プログラムのマネジメントモデル - 適応型多重パイラルアップマネジメント	C-6 野坂美穂:代替的手段としてのアライアンスとM&Aにおける理論的検討	D-6 谷口邦彦:ナレッジコアをナレッジスレッダで紡ぐP2Mマネジメント～ロボット産業分野の技能人材育成を例題として～	E-6 森川勇治・石上隆司:日本型PMのためのソフトウェアに関する文化的考察

15:00-15:15	休憩 15分 コーヒーブレイク				
15:15-16:15	[A会場・3F 多目的ホール] 特別招待パネル セッションタイトル: 公的サービス領域での情報システム開発プロジェクトマネジメントの課題 司会: 東京工業大学大学院総合理工学研究科教授 出口弘 基調講演(20分): 総務省消防庁消防大学校専門官 高島史郎 「電子政府の推進のための情報システム開発に関する現状と課題」 問題提起(20分): 東京工業大学大学院総合理工学研究科教授 出口弘 「公的サービス領域での情報システム開発の問題ー社会的アーキテクチャデザインのためのシステム方法論ー」 質疑応答(20分)				
	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場
会場	3F 多目的ホール	6F 603号室	6F 604号室	6F 602号室	8F 801号室
研究発表	統合トラック	開発トラック	組織トラック	自由トラック (グローバル戦略)	自由トラック (参加型学習)
16:15-16:25	各教室へ移動				
座長	—	石川千尋	小松昭英	小川幾弘	山本秀男
16:25-16:55	—	B-7 東義則: 高付加価値製品を継続して開発していく仕組デザイン～体外診断薬メーカーの事例～	C-7 小原重信: 第4世代の日本型プロジェクトマネジメント - 革新、開発、改善の相乗複合化	D-7 平井一志: 首相官邸「アジア・ゲートウェイ戦略会議」への政策提言プロセスにおけるP2M的アプローチ	E-7 松田直浩・森幹彦・喜多一: プロジェクト型学習(PBL)における WBSの活用とその導入手法の提案
16:55-17:25	—	B-8 宇治野天祥・西尾雅年: P2Mに基づく授業経営戦略に関する研究	C-8 湯野川恵美: 再利用可能なITプロジェクトフレームワークの研究～WBSを活用した計画・組織・変更管理とナレッジの共有化～	D-8 卯瀬高久・浅田孝幸: バイオガス原料による水素製造プロセスの経済性評価	E-8 菅谷茂・佐野明恵・西尾雅年: 企業におけるCSRに関する研究 - サステナビリティ BSCの提案 -
17:35-18:35	[A会場・3F 多目的ホール] ワークショップ「ITソフト産業の展望と次世代人材育成」 司会 早稲田大学国際教養学部教授 木下俊彦 日本ユニシス株式会社 .NET センター長 白井久美子 株式会社クロスリンク・コンサルティング 代表取締役社長 拜原正人 京都大学学術情報メディアセンター教授 喜多 一				